

You, Unlimited



Ryukoku University



Center Report

龍谷大学 学修支援・教育開発センター 通信

2023-2

「学生による学期末の授業アンケート」実施状況(実施率・回答率)一覧 ————— 2

学生による授業観察にもとづく授業支援 ————— 3

2023年度自己応募研究プロジェクト 中間報告会 一覧 ————— 4

【プロジェクトの事例紹介】 保育者養成科目「保育内容(言葉)の指導法」における
保育活動の学修に関する授業改善 ————— 4

【ライティングサポートセンター】 レポートや卒業論文にかんする講習会を開催 ————— 5

【FD研修会】 生成系AIが教育現場にもたらす影響を考える ————— 6

【FD研修会】 未来社会を担う「主体」をどう育てていくか
— 初等中等教育の学びから、高大接続を考える ————— 7

【FDフォーラム】 探究的な学びを通してそれぞれが目指すもの
— 主体性につながるマインドの育み方 ————— 8

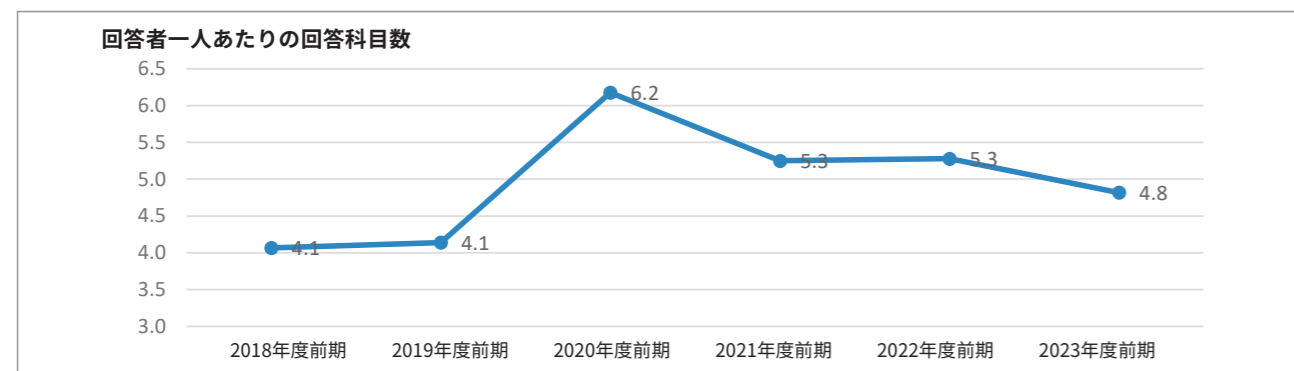
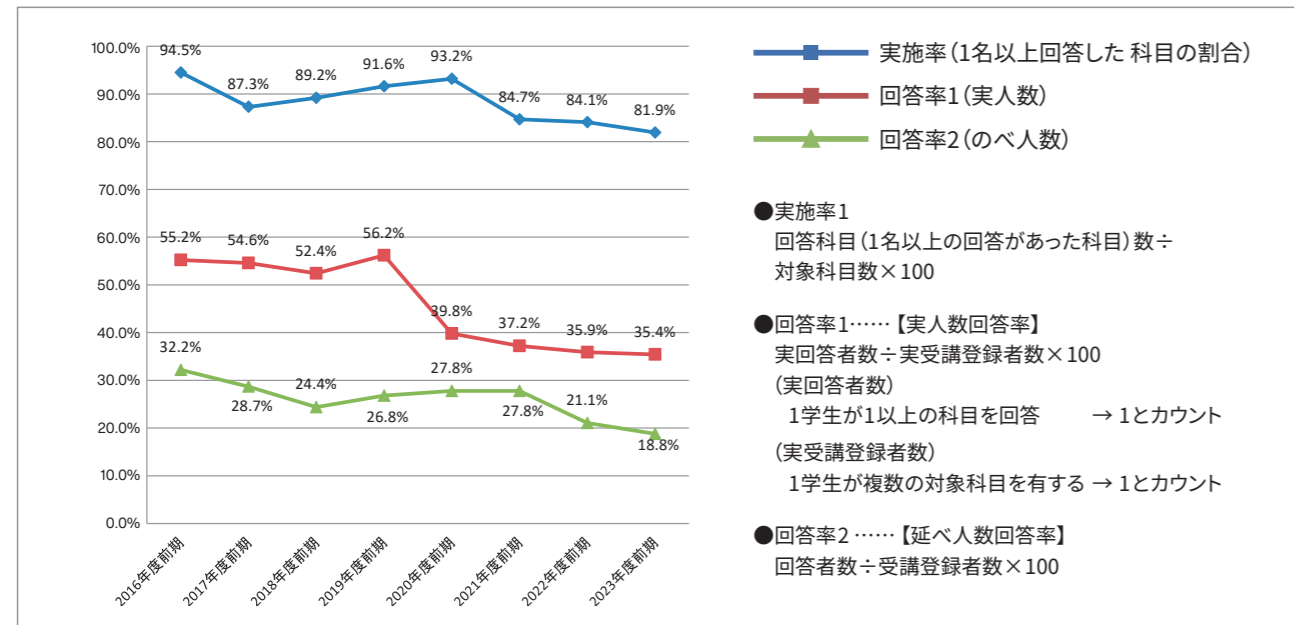
データでみる龍谷大学生の学びの実態 ————— 10

新着図書紹介 ————— 11

「学生による学期末の授業アンケート」実施状況(実施率・回答率)一覧

2023年7月8日(土)～8月3日(木)に第1学期(前期)の「学生による学期末の授業アンケート」を実施しました(クォーター科目は5月20日(土)～6月15日(木))。

回答は本学のLMSであるmanaba course上で収集し、述べ33,748件の回答がありました。経年の実施率・回答率は以下の通りです。



学生による授業観察にもとづく授業支援

本学では2021年度・2022年度指定研究プロジェクトとして「学生による授業観察」について、調査・試行に取り組んできました。この研究成果をもとに、2023年度から学修支援・教育開発センターの新たな事業として「学生による授業観察に基づく授業支援」を全学を対象に推進しています。

学生が授業観察を実施するにあたり、事前に研修を行っています。1回目の研修では、当事業を担当する教員によるオンデマンド動画を視聴し、授業観察の目的と手段、期待される効果、学生の取り組み、シラバスの読み方、授業を観察する際のポイントを学びました。2回目の研修では、担当教員と参画学生が対面(一部オンライン参加)で授業観察のポイントについて検討しました。学生からは自らの経験にもとづいて複数の観察ポイントが提案されました。いずれも、本学で履修してきた授業のなかから、おもしろかった授業、興味をもった授業、工夫されていた授業、学問的探究を深めることができた授業など、学生のやる気に火をつけた授業の様子を思い出しながら提案されており、学生の視点に立って行う授業改善の意義を確認することができました。3回目は、担当教員の授業を参画学生が観察し、報告書を提出する実地研修を実施しました。提出された報告書に対しては、担当教員が具体的なフィードバックを行いました。2024年1月までに実施した授業観察は1科目ですが、今後も教員が自発的にこの事業を利用し、学生の視点に基づく授業改善に貢献できるように、効果を広く広報し、学修者本位の教育を進めていきます。

＜この事業を担当する法学部の寺川史朗教授から＞

ふつう受講生は授業への出席やレポートの作成・提出、定期試験の準備など単位を取得することに重点を置きますが、この事業で授業観察を行う学生は単位取得とは関係なく授業を観察します。受講生や教室全体の様子を見ながら、担当教員の授業方法を観察し、学生の立場から見た場合の改善点などを報告書にまとめて提案します。授業アンケートには表われない指摘をすることもあります。それぞれの授業には到達目標や講義方法があり、教員にも授業をする際の「こだわり」がありますので、それはどうか大切にしてください。この了解のもとに、学生による授業観察を受けていただければ、今まで気づかなかったことが発見できるかもしれません。その一助になれば幸いです。



実地研修の様子



集合研修の様子

2023年度自己応募研究プロジェクト 中間報告会 一覧

代表者名	プロジェクトテーマ	日時	実施形態	中間報告テーマ	中間報告概要
小正 浩徳 (心理学部)	中途退学の予防に向けた大学適応感質問紙の活用 III	9月20日(水) 15:30~	対面 (事前録画動画上映)	2022年度「大学生生活の意識に関する調査」(短期大学のFD報告会と兼ねて実施)	特に、大学生の中途退学に関する心理的要因などを明らかにするために、大学適応感尺度を用いて質問紙調査を実施した。その結果、現段階では短期大学部においては「大学帰属感」「学ぶ満足感」「教員サポート感」をより感じられる対応をさらに展開すると、中途退学予防効果をもたらすと考察されている。この結果をもとに、個々の学生への教育支援を充実させより快適な大学生生活環境を提供するためにはどのようなことが必要か、今後の全般的な教育支援のあり方について短期大学部教員の中で検討する。
神谷 祐介 (経済学部)	オンデマンド授業の経験を活かしたICT×アクティブ・ラーニング型授業の実践と評価	12月15日(金)	センター会議開催時に報告	オンデマンド授業の経験を活かしたICT×アクティブ・ラーニング型授業の実践と評価	オンデマンド授業の体験を活かして、対面用のICT3点セット(短時間の動画、モバイルデバイス、manaba)を活用した対面授業の実践について報告する。
栢木 紀哉 (経営学部)	学修者の主体的な学びを促すICT活用教育の構築と実践	11月17日(金)	センター会議開催時に報告	経営学部新入生のICT活用に関するアンケート調査結果の報告	経営学部の初年次情報教育科目の初回授業で実施した、学生の情報教育環境に関するアンケート調査を集計・分析し、高校までの情報教育で学んだテーマ、ICT機器の活用に対する意識について、過年度との比較でどのような変化が見られるのか、特にどの部分に変化が現れているのかについての分析結果を報告する。
生駒 幸子 (短期大学部)	保育者養成科目「保育内容(言葉)の指導法」における保育活動の学修に関する授業改善	7月4日(火) 7月11日(火) 7月18日(火)	公開授業 授業名: 保育内容「言葉B」の指導法 (短期大学部子ども教育学科2年生)	教材研究に基づく保育活動の考案・実践を実現するアクティブラーニング・プログラムの検討	学生はグループごとに1冊の絵本をもとにイメージをふくらませ乳幼児期の発達に相応しい保育活動を考案し、保育指導案を立案する課題に取り組んだ。その保育指導案を保育実践に展開する学習としてグループで模擬保育を行い、保育実践力の獲得を目指していることを報告する。
堺 恵 (短期大学部)	児童養護施設での実習に向けた視覚教材の作成	11月17日(金)	センター会議開催時に報告	児童養護施設での実習に向けた視覚教材の作成	本プロジェクトでは、保育者を目指す学生が施設へ実習に行く際の事前学習において、その学びを円滑にする視覚教材を作成している。中間報告では、実施済みの事例研究の内容や事例研究に対する施設職員によるコメント、実際の施設撮影された資料を使用した学生のアンケート結果などについて報告する。

プロジェクトの事例紹介

保育者養成科目「保育内容(言葉)の指導法」における保育活動の学修に関する授業改善 生駒 幸子 准教授 (短期大学部)

短期大学部子ども教育学科では保育者養成を行っています。保育者を志す学生が授業「保育内容(言葉)の指導法」において保育活動を学修する際に、より意欲的に学びに取り組むことのできるアクティブラーニング・プログラムを検討するという授業改善、教材開発に取り組んでいます。プロジェクト2年目の2023年度は、これまでの3段階に設定していたアクティブラーニング・プログラムに、【STEP4】模擬保育を加え、4段階としてブラッシュアップしました。この模擬保育を行う授業を公開し、研究プロジェクト中間報告としました。

乳幼児ではないフロアの学生を子どもに見立てる限界があるなかで、有意義な模擬保育が成り立つのかという懸念もありましたが、私の想定した以上に学生たちが想像力と集中力を発揮し、保育・教育実習での体験をふまえて乳幼児の発達に思いを馳せながら子どもや保育者になり切っていました。保育実践を思い浮かべるだけでなく、実際にやってみることで子どもへの関わり・指導の留意点や自らの課題にも気付けたようです。学生たちが各グループの模擬保育で称賛と批判を適切に伝える「対話」から、協働して保育実践の本質に迫る学びを目指す姿がみられました。

研究プロジェクト最終年度に向けて、さらに授業内容を精査し、学生が充実して取り組めるプログラムにすべく授業改善に取り組んでいきたいと思えます。



ライティングサポートセンター

レポートや卒業論文にかんする講習会を開催

ライティングサポートセンターでは、毎年、第1学期(前期)にレポート作成の基本に焦点をあてた講習会、第2学期(後期)にレポートに加えて卒業論文の執筆をテーマにした講習会を開催しています。

2023年度は、5月に2回、11月に3回、計5回開催しました。開催方法は、深草キャンパス和顔館1Fアクティビティホールでの対面、瀬田キャンパス智光館B1Fミーティングルームでのライブ中継およびオンライン配信です。講師は、ライティングサポートセンターのチューターリーダー(龍谷大学大学院生)およびライティングスーパーバイザーの島村 健司先生が務めました。



講習会の様子(ライティングチューターの中村 実咲さん)

日程	テーマ	概要	講師
5月24日	レポートのタイプを知る —レポートを書きはじめる前に—	レポートと感想文とのちがいが、整理型と論証型のとらえ方について解説します。	ライティングサポートセンター チューターリーダー 神林 声さん (文学研究科)
5月26日	レポートの実際を知る —論証とは—	多くの学生が難しいと感じる論証型レポートの、とりくむべき要点を、具体例で解説します。	ライティングサポートセンター スーパーバイザー 島村 健司先生
11月6日	レポート・卒業論文に役立つ 資料の探し方	インターネット、図書、論文、新聞記事などの基本的な検索を、レポートの具体例を交えて解説します。	ライティングサポートセンター スーパーバイザー 島村 健司先生
11月8日	卒業論文・卒業研究をスムーズに 作成するために ～論文の基本、再確認!～	「序論・本論・結論とは?」その役割について解説します。とくに序論で書くべきポイント、本論で根拠を示す際に特に気を付けたい点について紹介します。	ライティングサポートセンター チューターリーダー 中村 実咲さん (文学研究科)
11月10日	引用の仕方と注・参考文献の 書き方	知っているようで知らないかもしれない…引用の仕方と注・参考文献の書き方について、基本的な要点を説明したうえで、具体例を紹介します。	ライティングサポートセンター チューターリーダー 大澤 美智さん (文学研究科)

これらの講習会は、開催後、多くの龍谷大学生に役立ててもらえるように、動画コンテンツとしてオンデマンドで配信しています。ライティングサポートセンターのホームページの「役立つツール」に掲載しています。右のQRコードからアクセスしてください。

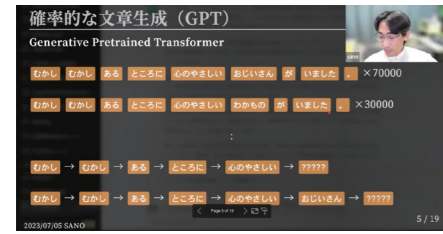
さらに、上記の講習会以外に、2023年5月には、高大連携推進室や学生部と連携し、感想文とレポートのちがいや一文一義の表現など、レポートの基本をテーマに講習会を2回、2023年11月には大宮キャンパス独自の講習会を1回、計3回開催しました。

引き続き、ライティングサポートセンターを積極的に活用していただきますよう、よろしくお願いいたします。



FD研修会 生成系AIが教育現場にもたらす影響を考える

2023年7月5日(水)に「生成系AIが教育現場にもたらす影響を考える」をオンラインで開催しました。当日は、72名の参加がありました。



最初に、佐野 彰先生(先端理工学部 助教)から、生成系AIの仕組みや特徴について説明がありました。まず、AIには非生成系AIと生成系AIの2つがあることが紹介されました。非生成系AIは、ある画像の中から特定の物を見つけ出すような仕組みのAIを指します。一方、生成系AIは学習済みデータを元にオリジナルデータを作成する仕組みのAIで、仕組みが異なるということです。

生成系AIが生成する文章は大量のデータから文章のパターンや意味を予測し、毎回異なる結果を得るもので確率モデルとなっています。次に以下の注意点があげられました。差別的な表現や倫理的に問題のある表現を避けるためには人文学習(RLHF: Reinforcement Learning from Human Feedback)が行われており、入力した内容自体が学習に利用されるため、情報が収集されていることを認識しておく必要があるとのことでした。

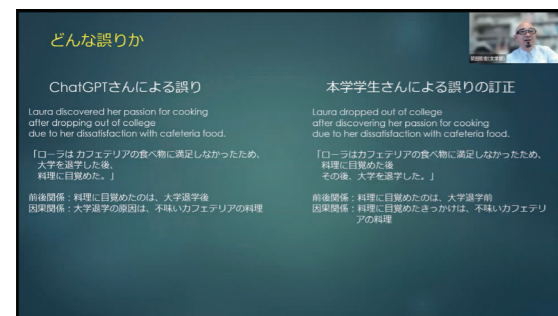
生成系AIは決して万能ではなく、集合知(テキスト知識の公約数)であり、質問の質が回答に影響します。そのため、誤った結果が出ることもあるため、生成系AIの結果を無条件で受け入れるのではなく、適切な指示を与え、結果に対して責任を持つことが求められています。

続いて、築地 達郎先生(社会学部 准教授)が「デジタルメディア論I」における受講生による生成系AIの利用について事例報告を行いました。

アンケート結果からは、文系学生も生成系AIを積極的に利用し始めていることが明らかになりましたが、使い方や利用方法は模索中であり、学生も不正確さについて認識しているようでした。

次に「生成系AIをはじめとする人工知能が浸透する時代において、学生の皆さんの学習とキャリア形成を支えるために、『大学という場』はどのように進化すべきだと考えますか?」という問いに対する学生の回答が紹介されました。

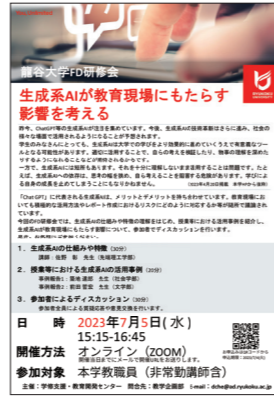
回答は「生成系AIと自分の意見を合わせて物事を捉える」、「人工知能と人間の知能や経験の両方を活用する」というような「高度融合」と、「新たな知識だけではなく、多角的な視点から物事を考えられる」や「多様な人が集まる大学だからこそ、AIにはない感情を出すコミュニケーション力をつける」というように「原点回帰」の2つに分けられました。このことから大学教育の場においては、異なる価値観を学ぶ機会を増やすことが求められていると言えます。



最後に、前田 哲宏先生(文学部 准教授)に事例をご報告いただきました。この事例は学生がChatGPTを使用したのではなく、教材作成にChatGPTを使用したものです。教科書に出てきた英語の長文を約200語程度に要約し、学生に使ってほしい重要語句を学生に問うという教材を作ってみたところ、語数のカウントが甘かったり、固有名詞がキーワードとして指定されたりしたため記入させる位置を調整する必要が生じたそうです。さらには因果関係や時間の前後関係が間違っていたことも判明したようです。

前田先生からは、「整理されてまとまったプロンプトによって命令することができれば、一度で思うものが生成されるかもしれないが、何度も命令して修正する作業が面倒に感じている。ただ、語彙レベルを落とすことやCEFRやIELTSの採点基準を使って採点するといった基準が明確なものには便利に使うことができる。」とご報告いただきました。

生成系AIの有用性や課題を知るとともに、学生の生成系AIに関する考え方や実際の授業での活用方法を知る機会となりました。今後、さらに進化し、用途は多岐にわたると見込まれますが、情報の信頼性や倫理的な問題など、引き続き活用には注意が必要であると言えます。



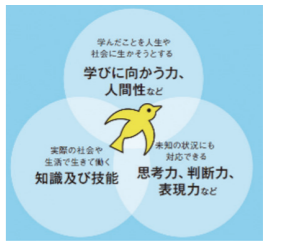
FD研修会 未来社会を担う「主体」をどう育てていくか—初等中等教育の学びから、高大接続を考える—

2023年7月28日(金)に「未来社会を担う「主体」をどう育てていくか—初等中等教育の学びから、高大接続を考える—」を開催しました。(対面・オンライン(ZOOMウェビナー)併用) 当日は76名の参加がありました。



山下 真司氏
ベネッセ教育総合研究所 主任研究員

今回は、ベネッセ教育総合研究所 主席研究員の山下 真司氏(高等学校学習指導要領(平成30年告示)総合的な探究の時間【解説】検討作成メンバー)を講師にお招きし、2025年度から始まる、新課程に対応した大学入学選抜や教育改革の動向に焦点を当て、高校の変化と大学教育における新たな役割についてお話しいただきました。まず、政府がSociety5.0をめざして社会が変わっていく中で学生や生徒たちがどのような社会を生きていかなければならないかという背景についてご説明がありました。社会の変化とともに働き方や組織が変化し、必要とされる能力も変わっています。その能力をつけるために「令和の日本型学校教育」を文部科学省は目指しています。多様な子どもたちに対して、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるということです。高等学校で2022年度から始まった学習指導要領には、社会に出てからも学校で学んだことが活かせるように資質・能力の3つの柱をバランスよく育むために何をどのように学ぶかが示されています。「総合的な探究の時間」は従来の「総合的な学習の時間」とどのように異なるのでしょうか。「探究の時間」は自己の生き方と一体的な課題を発見していくものになり、課題そのものが自分ごとになります。主体的に「問い」を自ら立ててめざしたい姿(未来)と現状のギャップを課題としてとらえ、行動していくこととなります。授業にも変化があります。教員が教える人ではなく、教員も生徒とともに一緒に考え、ともに学ぶ人になるという事例を紹介いただきました。自ら問いを立てて多様な人と協働しながら問題の解決に自ら取りくむ授業づくり、学校づくりによってこれからの時代を生き抜くうえで必要な資質・能力を育み、「主体」を育むことにつながります。



3つの資質・能力

次に、本学高大連携推進室の堀 浩司フェローから京都・滋賀の高校における事例を紹介していただきました。

京都市に2023年4月に開校した「京都市立 開建高等学校」は授業のアプローチを「伝える」から「考えて至らせる」に変えています。そのため、普通教室の4倍の部屋を使用してレイアウト変更しやすい教室が用意されています。自ら考え自ら学ぶ開建高校の授業は「問い」から始まります。今までのような、「教わっていた授業」から「自分で考えてその延長線上で他者と何かを共に作る」という新しい形になります。滋賀県では、文部科学省の「普通科改革支援事業」に採択された高校が2校あります。滋賀県立 伊香高等学校は森林に関する学びを、滋賀県立 守山北高等学校は地域課題探究とみらい共創を進めています。龍谷大学では、特色・魅力ある学びに重点的に取り組む「新しい普通科」について連携を進めています。また、高大連携に関する包括協定を締結し「探究」学習を深化・進化を測るためのサポートを実施しています。



堀 浩司 フェロー



質疑応答の様子

最後に、参加者から寄せられた質問に講師からの回答があり、2025年度に新学習指導要領で学んだ生徒が大学へ進学するにあたって、大学教育をどのように進めるかについて考える良い機会となりました。

2023年11月30日(木)にFDフォーラム2023「探究的な学びを通してそれぞれが目指すもの—主体性につながるマインドの育み方—」を開催しました。(対面・オンライン(Zoomウェビナー)併用)

長崎県から純心女子高等学校 教諭の槌本 六秀氏を講師にお招きし、「なぜ探究学習を必要としてきたのか」「探究学習を通して育てたい生徒像」について、ご自身の経験を交えながら実践事例をご紹介いただきました。



槌本 六秀氏
純心女子高等学校 教諭

その中で、槌本先生は「AL(アクティブラーニング)」「主体性」「探究」を共有ワードとして挙げられ、「AL」が必須ではなく、「生徒自身が自ら獲得する学び」に焦点を当てられていました。わからないことでも友達と一緒に協働していけば新しい自分の気づきが生まれるということを生徒に気づいてもらいたいとおっしゃっていました。次に「主体性」について、主体性を目的として探究に取り組むということではなく、自分がどう思っているかを自分で振り返って、自分の弱さを受け入れるということが自己肯定感を高め、他者や自分を大切にできるマインドを育むということを述べられました。「失敗を恐れないマインド」が主体性につながる

ということです。最後に「探究」についてお話いただきました。どのようにして探究活動に取り組むかについてよく質問されるそうですが、実施しようとしている先生自身、もしくは学校が生徒の何を育てたいのかで違って来るため、まずは何を育てたいかと考える必要があるということも述べられました。例えば、純心女子高等学校の場合は「失敗を恐れないマインド」や、他者や自分を大切にできるマインドを育てたいという目的のもと、協働につなげるための「自己との対話」を進めているそうです。

槌本先生は約20年にわたり、探究活動を実践されてきました。AL型授業、調べ学習とプレゼンの日常化、協働的に取り組む探究活動の開始、他学年協働の開始と遷移し、3年前からは全校で探究活動に取り組まれています。現在、毎日生徒が通る校内に同校で実施している探究活動が分かるように掲示されたボードや、大学等で行われる探究に関連する講演会等の活動の掲示がされており、探究活動が生徒の日常に溶け込んでいるとのことでした。

続いて、龍谷大学付属平安高等学校 教諭の石川 真也氏から同校での取り組みについての紹介がありました。平安高校では『教育基本構想2030』を掲げ、学校全体で探究に取り組んでおり、その中に「探究」というキーワードがあるそうです。答えのない社会の中で、生徒たちが自分の頭で考えていくことを大事にし、自分から進んで学習するように、3年間で最低でも3回は探究の機会を設けています。ただし、最初から生徒主導では難しいため、はじめは教員側が主導して進め、徐々に生徒主導の状態にしていくようなステップになっています。



石川 真也氏
龍谷大学付属平安高校 教諭

宗教科の授業では、例えば「仏教SDGs」について話をしながら探究も行い、教科を横断的に学んで探究に結びつけています。また、朝の仏参(お参りや歌を歌う時間)では、「今月の言葉」を生徒間で紹介するスピーチの時間を設け、朝の時間を1単位として認めています。時間割上の探究科目としては、高校1年生の4月から探究の基礎を学びます。ただし、課題設定に時間がかかりすぎるため、課題は教員が提示し、探究のサイクルを1度回してみる体験をします。1年生の後半からは生徒の自由度を増やした探究活動を実施し、高校2年になると1年の経験を踏まえてフィールドを学内から学外に広げ、教員が引率せずに生徒が校外で活動するという体制を整えました。生徒のやる気が高まり、主体性につながっていると思われます。3年生はさらに個人で深めていき最終的には小論文という形を目指しています。9月以降は進路のこともあり、それぞれのコースの特性に応じた探究活動に切り替えていくことを想定しています。

フォーラム当日は、学内外から多くのお申込みをいただき、97名(対面31名、オンライン66名)の参加がありました。高校の教育現場では、2022年度入学生から新学習指導要領に則った教育が始まっています。全ての教科において「なぜそのような事象が起きたのか」という、「問いを立てて調べていく」という探究型に学習形態が変化しています。2025年度に新学習指導要領のもとで学んだ生徒が大学へ進学してきます。高校での取り組みを参考にして大学でどのように活かすのか、高大連携をはじめ、新たなカリキュラムや授業の改善を考える機会となりました。



対面会場の様子

参加者からのアンケート(抜粋)

- 槌本先生の「失敗することを恐れないマインドづくり」という言葉が印象的でした。探究のアウトプットを追うのではなく、生きていくうえで必要なマインドづくりを大切にしている点は、大学入学後の大きな成長の基盤となると確信しました。
- 高校での探究のあり方や探究はスクールポリシーに通じることが分かった。平安高校の探究がかなり良くなっていることが分かった。
- 自分が知っていることをすぐに教えずに考えさせるというのは、今までやってきたことの逆なので難しいと思う。しかし、これが探究の第一歩だと思う。
- 高校現場での探究活動の具体的な取り組み事例を聞いたこと、またどのような目的で取り組まれているのかをお聞きできとても勉強になった。今後、探究学習を本格的に取り組んだ高校生が大学に入学してくる中、どう対応していくか体制を整える必要はあるが、まずは状況を学習できたことがとてもよかった。

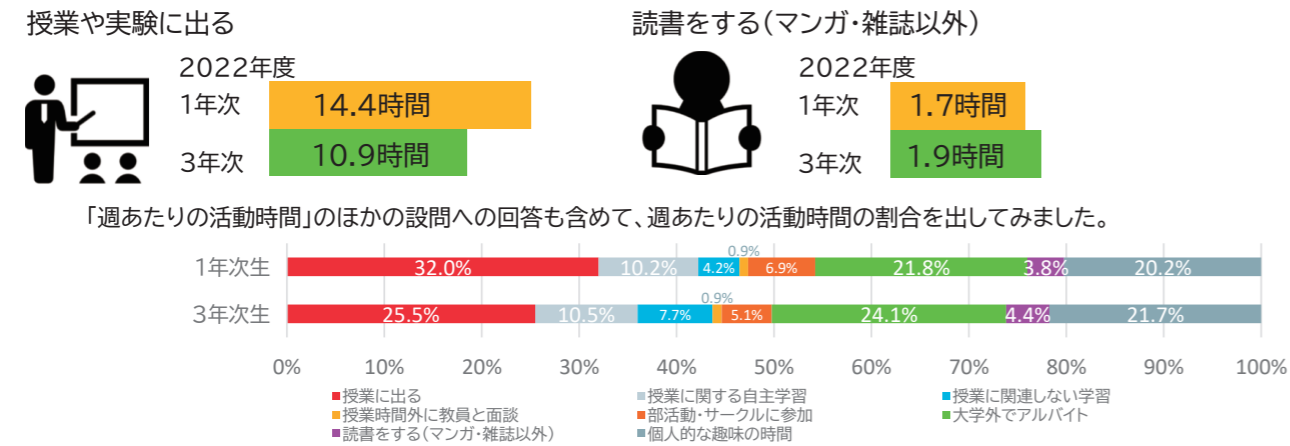
データでみる龍谷大学生の学びの実態

龍谷大学では、四年制学部の1年次生と3年次生を対象に、学びの実態を把握するための調査を実施しています。学生自身に大学生生活を自己評価してもらい、龍谷大学における教育の成果を測定することを目的としています。

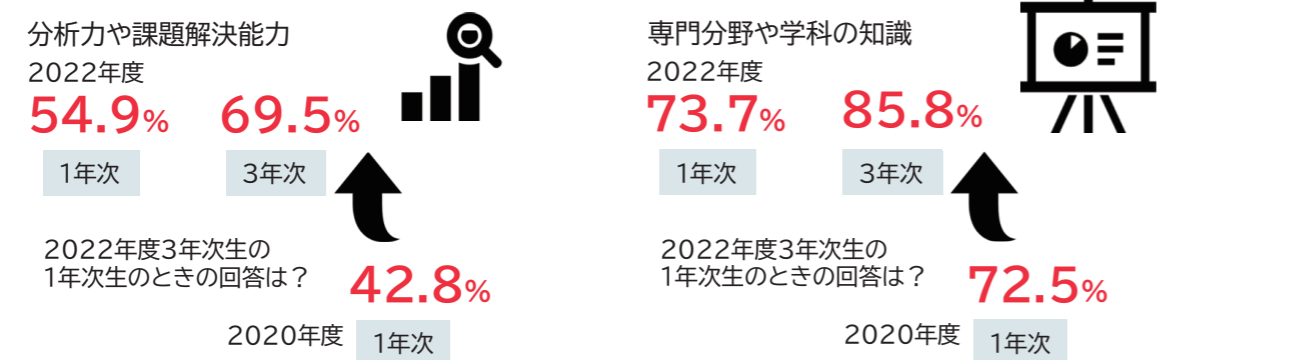
設問内容は、龍谷大学が参画する大学IRコンソーシアムが企画したもので、学生の学習行動や学習時間、能力に関する自己評価、満足度を中心とした調査項目が含まれています。学生自身が大学での学びをどのように受けとめて、どのように評価しているのかを調査し、その結果を通じて、教育の質を客観的に保証するとともに、教育改善の方策を見出します。

調査の結果は、具体的な数値や統計データとして、学内の会議で共有するほか、一部をピックアップし、ホームページ等に掲載しています。2019～2022年度のデータを一部紹介します。

週あたりの活動時間 ※平均活動時間

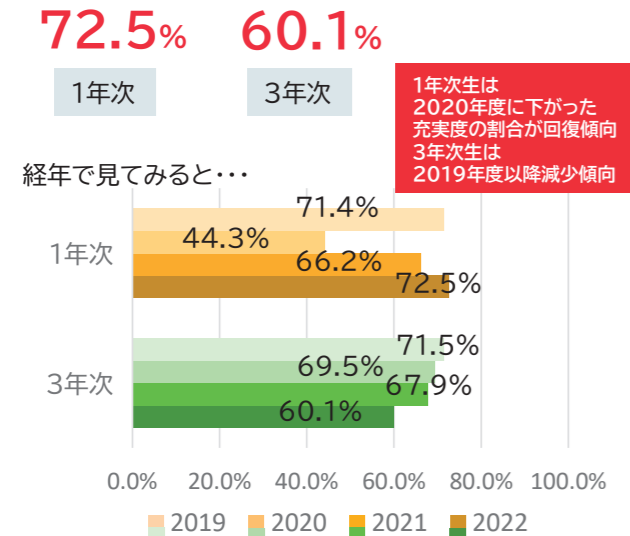


入学後の能力変化 ※大きく増えた、増えたと回答した割合



学生生活の充実度

※充実している、まあまあ充実していると回答した割合



調査実施概要は、以下のとおりです。

実施期間: 当該年度10月～1月(学部により異なる)
 実施方法: manabaを用いたWEB調査
 対象: 1年次生

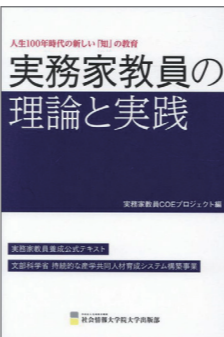
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
対象者	当該年度入学生 (法学部、政策学部は2021年度～)			
回答数(回答率)	2,959 (74.5%)	3,073 (76.05%)	3,313 (68.11%)	2,964 (56.91%)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
対象者	2017年度生 (国際学部、理工学部)	2018年度生 (文学部、経済学部、国際学部、理工学部、社会学部)	2019年度生 (法学部、政策学部以外)	2020年度生 (法学部、政策学部以外)
回答数(回答率)	480 (44.82%)	1,751 (55.34%)	1,870 (46.70%)	1,477 (36.57%)

新着図書紹介

実務家教員の理論と実践

人生100年時代の新しい「知」の教育



本書は、専門職大学院や専門職大学をはじめとする高等教育機関で活躍する実務家教員に必要とされる基本的なスキルや発想法について学ぶ教科書です。

出版年月: 2021年3月
 編著: 実務家教員COEプロジェクト
 発行所: 先端教育機構社会情報大学院大学出版部
 価格: 2,750円(税込)

ページ数: 278p
 大きさ: A5判
 I S B N: 9784910255057
 価格: 4,180円(税抜)

「学習成果」可視化と達成度評価

その現状・課題・展望



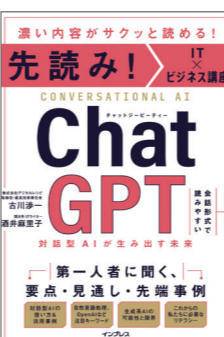
大学での「学習成果」を測る、妥当性・信頼性ある指標を提言する!
 コロナ禍に伴うオンライン授業の普及などもあり、大学での「学び」がさらに複雑化・多様化している昨今、その学習成果をどのように評価し、可視化できるだろうか? わが国の全大学を対象とした「達成度評価のあり方に関する調査研究」の結果を集約・分析し、内部質保証システムの有効な機能とグローバルに通用する多様な人材育成を志向した具体的提言の書!

出版年月: 2023年3月
 編著: 大学基準協会/早田幸政
 発行所: 東信堂
 価格: 4,180円(税抜)

ページ数: 416p
 大きさ: A5判
 I S B N: 9784798918310

先読み! IT×ビジネス講座

ChatGPT対話型AIが生み出す未来



「ChatGPT」は文章生成AIです。人間が入力した質問に答える形で文章を返してくれるので「対話型AI」とも呼ばれています。自由度の高い会話をしながら自然な文章が生成されることから、いま大きな注目を集めています。本書では、ChatGPTの実力や技術的な背景、可能性、課題、ビジネス事例などをその分野の第一人者に質問しながら深掘りしていきます。話題のトピックがよくわかる! コンパクトですく読める! 『先読み! IT×ビジネス講座』シリーズの第3弾です。

出版年月: 2023年4月
 著: 古川渉一/酒井麻里子
 発行所: インプレス
 価格: 1,540円(税込)

ページ数: 176p
 大きさ: A5判
 I S B N: 9784295016380

インサイドアウト思考

創造的思考から個性的な学習・ライフの構築へ



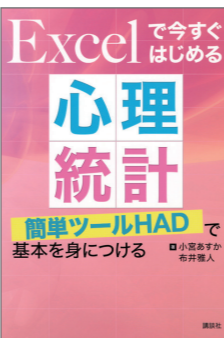
ライフスタイルの多様ないまに「自分らしい」ウェルビーイングのための新たな思考法
 他人や世間を気にせずに、たとえ正解はなくとも自分の言葉で考え表現する、自己を起点とした問いの思考「インサイドアウト思考」を提案し、その今日的意義を述べ、身体化するための具体的な学習法を分かりやすく解説。学生・教職員はもちろん、人生の新たなステップをめざし、自分を大切にすすめるすべての人々に有用な、大好評「学びと成長の講義シリーズ」第4弾。

出版年月: 2023年7月
 著: 満上慎一
 発行所: 東信堂
 価格: 1,650円(税込)

ページ数: 192p
 大きさ: B6判
 I S B N: 9784798918556

Excelで今すぐはじめる心理統計

簡単ツールHADで基本を身につける



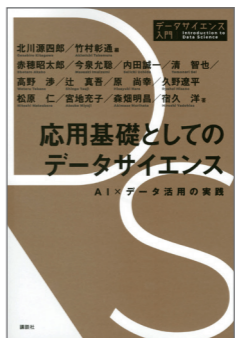
心理・教育系でよく使う分析手法に特化したExcel用無料ツールHADを使ってみよう。Excel関数を覚えるよりもはるかに簡単に実用的。自分のPCで実行するからこそ統計の基礎もコツも実感できる。レポート、卒論も安心。

出版年月: 2018年1月
 著: 小宮あすか/布井雅人
 発行所: 講談社
 価格: 3,080円(税込)

ページ数: 224p
 大きさ: A5判
 I S B N: 9784061548121

応用基礎としてのデータサイエンス

AI×データ活用の実践



いますぐ身につけるべき「データサイエンス」「データエンジニアリング」「AI」の基礎知識がここにある! 大好評の「教養としてのデータサイエンス」に続く第2弾!
 文理を問わず、大学・高専生に、自らの専門分野への数理・データサイエンス・AIの「応用基礎力」を習得させることを目的として編纂された。

出版年月: 2023年2月
 編: 北川源四郎/竹村彰通
 著: 赤穂昭太郎/今泉允聡/内田誠一/清智也
 高野渉/辻真吾/原直幸/久野遼平
 宮地 充子/森畑明昌/宿久洋

発行所: 講談社
 価格: 2,860円(税込)
 ページ数: 384p
 大きさ: A5判
 I S B N: 9784065307892

図書貸し出しのご案内

学修支援・教育開発センターでは、高等教育やFDに関する図書を購入し、教職員へ貸し出しを行っておりますので、是非ご利用ください。専任教職員につきましては、学内便での貸し出しも可能です。1.お名前、2.ご所属、3.教員/職員の別、4.貸出希望の書名、5.著者名を明記の上、dche@ad.ryukoku.ac.jp までお申込ください。詳細は、https://fd.ryukoku.ac.jp/for_teacher2/ をご参照ください。



2024年2月発行（通算51号）
編集・発行 龍谷大学 学修支援・教育開発センター

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
075-645-2163 <https://fd.ryukoku.ac.jp/>